

川口地域の課題について

資料No.3

所管課	項目	現 状 等	左記の抱える課題等	備考欄
1 地域振興課	今後の東川口地区（支所周辺）の公共施設の有り方の検討	<p>地域の中心部である東川口地区には、東川口保育園をはじめ、川口文化会館や川口町商工会館、川口支所庁舎など、昭和50年代に建設された公共施設が多数あり、建物の老朽化の進行や耐震性が懸念されている。</p> <p>前期地域委員会で防災やコミュニティ、福祉や子育てなどまちづくりについての課題を検証しながら、既存施設の集約・複合化なども含め、川口支所庁舎をはじめとした今後の公共施設のあり方を検討してきた。</p> <p>更なる検討が必要として、市への提案などは今期の地域委員会へ委ねられた。</p>	<p>川口地域にとってこれからのまちづくりを考える上で、東川口地区の公共施設の有り方は大きな課題である。</p> <p>前期の地域委員会の検討結果や地域の防災面における課題、今後開設されるコミュニティセンターなどを踏まえ、総代会や東川口地区など関係団体と連携しながら検討する必要がある。</p>	
2 地域振興課	川口運動公園の活性化	<p>多目的グラウンド、野球場、テニスコート、体育館のほか、オートキャンプ場やピクニック広場など10のスポーツ・レクリエーション施設がある。</p> <p>年間約1万人が利用しており、市民の憩いの場になっている。</p> <p>平成25年度からは指定管理制度を導入しており、NPOくらしサポートえちご川口を含む3者からなるJV「川口運動公園運営グループ」が受託している。</p>	<p>利用者数の減少 H27：13,691人 H28：10,032人 H29：8,379人</p> <p>施設の老朽化と施設の内容の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昭和55年から平成の始めに整備された施設が多く、修繕費など維持管理費が増加している。 ・施設の設備内容が現在のニーズとあわない面が見られる（オートキャンプ場） ・子どもが遊べる遊具が少ない。（地域委員会からの要望あり） <p>他の観光施設との連携を図り、相互の魅力を高める方法を検討</p>	
3 地域振興課	川口地域交流体験館（杜のかたらい）の管理・運営	<p>生涯学習や交流の拠点施設として、平成12年4月にオープン貸館（コーラス、カワロックなど）や施設を活用した事業（絵画教室、展示会、コンサート、ワークショップなど）を中心に活用されている。</p>	<p>利用者の低迷 H27：4,212人 H28：4,045人 H29：4,057人</p> <p>建物や設備の老朽化</p> <p>維持管理費用の増加（修繕費）</p> <p>周辺施設との連携による相乗効果を目指す</p>	
4 地域振興課	川口地域集会施設の管理・運営	<p>川口地域のみ、市が集会施設を所有する形態となっている。</p> <p>10地区に24施設</p> <p>集会施設の管理運営は、指定管理者（各地区・集落）に委託</p> <p>大規模修繕等は支所または、地区の一部負担により実施している。</p>	<p>老朽化施設の維持管理費の増大（市及び地区・集落）</p> <p>人口減少による維持管理に要する地元の負担が増加</p> <p>旧西川口保育園の活用検討</p>	
5 市民生活課	「ふるさとの森」づくりに関する業務	<p>川口ふるさとの森実行委員会（12名）及び森づくり作業チーム（16名）により、全国植樹祭お手植え会場に隣接するふるさとの森づくりエリアにおいて、森林整備・植物保護活動を行っている。</p> <p>地域の宝磨き上げ事業「森づくり」の実施団体としてH27年度より補助金を申請している。</p> <p>森林整備作業等実施状況 H30年度 延べ56日間96名</p> <p>目的：植林地及びお手植え会場周辺環境整備と新たな「ふるさとの森づくり」活動の実施</p> <p>実施主体：実行委員会、幹事会、作業チーム、事務局（長岡市）</p> <p>時期：3カ年計画を作成する。単年度計画で作業プログラムを設定し実施</p>	<p>作業メンバーの確保</p> <p>森林整備作業及び植物保護は、長い年月と手間のかかる事業であり、ボランティアの確保に苦慮している。</p> <p>委員会の組織、活動範囲等について見直しが必要</p>	
6 産業建設課	魚野川水辺プラザの活用	<p>平成23年7月新潟・福島豪雨災害により甚大な被害を受けた「魚野川水辺プラザ」と「川口やな場」が昨年7月にリニューアルオープンした。</p> <p>両施設は、川口地域の重要な地域資源であり、観光・交流施設としてさらに活用を図っていく。</p> <p>そのために河川区域でも民間事業者による飲食店、売店などが設置できる「都市・地域再生等利用区域」の指定に向け、協議会を設立して取り組んでいる。</p>	<p>昨年「都市・地域再生等利用区域」の指定に向けて飲食販売等の社会実験を行っているが、今後、イベントや飲食店などの管理・運営を行う組織体制を確立していく必要がある。</p>	

川口地域の課題について

資料No.3

	所管課	項目	現 状 等	左記の抱える課題等	備考欄
7	産業建設課	川口総合交流拠点施設の活用	温泉・ホテル・古民家・コテージで構成された「川口総合交流拠点施設」を「えちご川口農業振興公社」が指定管理者として管理運営しているが、集客数が減少傾向にある。	川口総合交流拠点施設は川口地域における観光・交流拠点で、これまでも集客に向けた取り組みを行ってきたが近隣には類似の温泉施設もあり、川口総合交流拠点施設単体では集客力に限界がある。 そこで、集客に向けた新たな取り組みが必要となっている。	
8	産業建設課	まつり（夏、秋、冬）	各まつりとも開催の趣旨や目的が薄れ、イベントだけが先行し、その内容もマンネリ化になっているとの意見がある。	これまでの実施体制やまつり自体の必要性も含め、広く意見を聞きながら今後のまつりのあり方を検討する必要性が生じている。	
9	産業建設課	木沢やまぼうしの有効活用	これまで震災地視察、山菜取り体験などにより集客してきたが、年々減少傾向にある。	現在、指定管理施設として地域団体の「フレンドシップ木沢」に委託しているが、地域団体であり高齢化も進んでいることから、PR活動や施設単体での集客に限界がある。 そこで、集客に向けた新たな取り組みが必要になっている。	